「出題の意図」

選抜区分	２０２１年度　（選抜区分：一般選抜　後期日程） 文学部　比較文化学科　（科目名：小論文）
出題の意図 **（評価のポイント）**	問２【出題の意図】 問２では、問題文を正確に読解したうえで、地球環境や科学技術と人間との関係などに関する学校での学びや日ごろの問題意識を踏まえながら、自身の立場を説得的に論述する力を問う。 問２の前半で説明が求められている「二つのグループ」とは、「猛進派」と「ふるさと派」を指す。それぞれの特徴については、主に問題文の後半で説明されている。それによると、猛進派は自然や社会の際限ない成長を信じ、人口増加や飢餓、環境問題には技術の進歩で対処すべきとする。天然資源に代わる人造資源を考案し、化石燃料の問題には、原子力に関わる技術革新で対応しようとし、そのために経済成長を志向する。これに対しふるさと派は、社会の進歩には限界があり、無限に成長する生命はないという事実を再認識し、拡大志向を捨て、身の丈にあった目標を立て直すべきと主張する。 二つの派の説明では、本文中の初出部分付近の文言を用いて表層的にまとめるのではなく、上記のような諸特徴を的確に捉えていることが求められる。さらに「猛進派は進歩を肯定し、ふるさと派はそれを否定する」という単純な図式ではなく、後者が進歩は否定しないもののその限界を見極めているということが理解できているとなおよい。 問２の後半では、前半の二つの立場を踏まえたうえで、自らの立場を説得的に論述することが求められる。 例えば自身がふるさと派に近い立場の場合は、著者の主張を反復して同調するのみならず、猛進派の問題点を挙げながらふるさと派の有効性を具体的に述べられているとよい。猛進派の場合は、例えば科学技術に支えられた現代では、ふるさと派の実現が困難であることを例示したり、環境技術の進歩の事例を挙げたりしながら猛進派の可能性を示すなどしてもよい。折衷的立場の場合は、双方の立場の優れている点を示し、欠点については軌道修正したうえで両者を有効に組み合わせる方途などを具体的に提案できるとよい。二つの立場のどちらでもない場合は、それぞれの欠点や限界、また双方を接合させることの難しさを具体的に述べ、そのうえで二つのグループに代わる第三の立場を提示できればなおよい。